

要介護度等改善事例公表事業 応募事例（7月～10月応募分）

サービス種別	事業所名	ページ
短期入所療養介護、通所リハビリテーション	介護老人保健施設トリトン	1
認知症対応型通所介護	デイサービスらしく自由ヶ丘①	3
認知症対応型通所介護	デイサービスらしく自由ヶ丘②	4
介護老人福祉施設	特別養護老人ホームなごやかハウス名楽	6
介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム楓林花の里南館（ユニット型）	7
認知症対応型通所介護	デイサービスらしく瑞穂	8
通所介護	なごやかハウス岳見デイサービスセンター	10
認知症対応型通所介護	デイサービスらしく昭和	11
認知症対応型通所介護	デイサービスらしく天白	13
認知症対応型通所介護	デイサービスらしく笠寺	14
認知症対応型通所介護	デイサービスらしく笠寺	16

名古屋市要介護度等改善事例公表事業とは

- ・高齢者の生きがい支援
- ・介護サービス事業所の意欲向上
- ・事業所間の情報共有

などを目的として、高齢者の心身状況の改善につながる支援を行った介護サービス事業所の取り組み事例を収集し、NAGOYAかいごネット上で公表することにより周知する事業です。

掲載されている取り組みの具体的内容、その他ご質問については各事業所へお問い合わせください。

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

誤嚥性肺炎のため入院していた病院を退院後、在宅復帰（知立の自宅での一人暮らし）のため、リハビリ目的でショートステイと入所をされた要介護4の方が娘様宅に退所。その後、娘様宅から通ったデイケアも卒業して希望の知立の自宅へ帰ることができた。

事業所	サービス種別	介護老人保健施設
	事業所名	介護老人保健施設トリトン
	所在地	名古屋市西倉町1番14号
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ <u>70歳代</u> ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	入院時は車いすレベルであったため、自宅へ帰るには歩行自立の必要がある。また自己での経管栄養と喀痰吸引の手技の獲得が必要		
本人の意向	歩けるようになりたい。自分のことができ元の知立の自宅に帰りたい。		
長期目標	知立の自宅に帰る	取組期間	R3.3.6～R3.6.6
短期目標	杖での歩行自立	取組期間	R3.3.6～R3.3.26
関連する加算の算定状況	ショートステイ個別リハビリ 入所短期集中リハビリテーション加算 入所認知症短期集中リハビリテーション加算 通所短期集中リハビリテーション加算		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

介護職：居室から食堂までの歩行見守り、立ち上がり訓練

看護職：経管栄養と吸引の手技指導

リハビリ職：歩行訓練（歩行器、手すり、杖）段差昇降訓練、認知機能向上訓練

ショートステイでの個別リハビリ（7回/週）、入所切替後、短期集中リハビリ（7回/週）認知症短期集中リハビリ（3回/週）で約2カ月間取り組んだ。認知リハビリは音読など嚥下機能強化を意識して行った。

娘様宅へ一旦退所後、デイケアでも同様のリハビリを継続し自信がついたため約1か月後に知立の自宅へ帰ることができ、地元でのデイケアでリハビリを継続している。

結果（達成したこと、達成時期）

R3.3.6の入所当時は車いすでの移動、吸引も必要であった。リハビリがすすみ、杖歩行での移動とADLは経管栄養を含め自立、吸引も不要となりR3.5.15娘様宅へ退所、その後のデイケアでリハビリを継続。最終的にデイケアもR3.6.11付で卒業し知立の自宅へ在宅復帰することができた。娘様があいさつに「リハビリってすごいですね」と嬉しいおことばをいただき、老健の役割を果たせた実感を共有することができた。

達成後の課題・目標

ご本人の自宅に帰る意思が強く、リハビリにも意欲的で認知機能も大きな低下がなかったため嚥下訓練の自主トレーニングも行うことができた。経口摂取に関しては退所時に

お楽しみ程度の訓練を開始できる程度の機能の印象はあったが、早期に帰ることがご本人の第一の希望であったため、さらに時間をかけて行うことができずに利用終了となったのが心残りではあった。次のデイケアに状況を説明し嚙下訓練を含めたりハビリ継続を依頼した。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

通所時のリハビリを通じ生きがいのある日常の発見と活動

事業所	サービス種別	認知症対応型通所介護
	事業所名	デイサービスらしく 自由ヶ丘
	所在地	千種区自由ヶ丘 1-7-18
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	ご主人を亡くされ気落ちもあり他者交流が減った。併せてご自身の右足の骨折後は外出機会や日常活動量が減少している。		
本人の意向	いつまでも自分の足で歩きたい		
長期目標	自分の事は自分で出来る	取組期間	R2.4.28～
短期目標	同年代のお仲間とのコミュニケーションをとる。	取組期間	R2.4.28～
関連する加算の算定状況	なし		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

『自分の事は自分でできる、いつまでも自分の足で歩きたい』という目標に対して、明るく前向きなご本人の性格を利用し、ただ行って貰うのではなく“目的意識”を持って以下に取り組んで頂きました。

【事例】週6日のご利用の中で、①下肢筋力の維持・向上の為の機能訓練 ②散歩を兼ねた歩行訓練 ③生活リハビリ(花壇の水やり、食事の準備・片付け、洗濯(干す・畳む)、送迎車量の洗車、室内掃除)を実施。

結果（達成したこと、達成時期）

“ご本人のやる気”を尊重し、ケアプランのサービス内容を“ご本人の日常の活動”として取り込んで頂くことができ、前向きな性格を前向きな生活に繋げる事が出来た。

具体的には、散歩や多種多様な生活リハビリが一日の日課に取り込まれ、外出機会や日常での活動量が増加した。また、一緒に散歩される他のご利用者様との交流も増え、笑顔で過ごされる事ができるようになった。

達成後の課題・目標

今後も安心・安全、そして楽しく在宅生活を送れるよう、生活リハビリを継続。また機能訓練による運動器の維持・向上に力を入れ、より活動的な生活が出来る用に支援してまいります。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

ADL の向上「生活自立度 A2／認知症高齢者自立度Ⅲa」

事業所	サービス種別	認知症対応型通所介護
	事業所名	デイサービスらしく 自由ヶ丘
	所在地	千種区自由ヶ丘 1-7-18
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	精神的に不安定になると ADL 全般に介助を要する事有り。 強い不安感や焦燥感による過剰なトイレ回数。失禁が見られる事もある為、リハビリパンツを着用。		
本人の意向	不安なく過ごしたい。		
長期目標	他の利用者、職員との交流を持ち能動的な生活をする	取組期間	R3.5.1～
短期目標	何でも参加して残存機能を活性化させる。	取組期間	R3.5.1～
関連する加算の算定状況	なし		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

前施設では歩行器を使用し移動を行っていたが、当施設ではご本人の機能・能力を考慮し以下を実施。

- 1 カ月目：手引き介助から開始。同時に立位や歩行安定の為の機能訓練、日常活動動作を取り入れた生活リハビリ、運動を取り入れたレクリエーションを続ける。
- 2 カ月目：ADL 状態を判断しながら見守り介助へ移行。上記、継続しながらご自身の要望発信（行きたい場所、タイミング）を促す。

結果（達成したこと、達成時期）

1 ヶ月ほどで全般的な ADL が向上。手引き歩行の際のふらつきが少なくなり、ズボンの上げ下げも安定。2 カ月目の見守り介助へ移行後の現在では、ご本人様発信で座りたい場所、トイレ、洗面所など行きたい時に自由に選択し生活をされています。

歩行器や手引きなどの介助を必要とせず、ご自身でトイレへ行くことができるようになった事で、気持ちの負担が軽減され自信もついたご様子で、過剰なトイレ回数は減少。それと同時に失禁もみられなくなったことから、リハビリパンツから布パンツへと向上できました。

運動機能向上に伴い、意思疎通も良好に自らの訴えもしっかりと伝えられる事ができるようになり、主治医からも評価されています。

達成後の課題・目標

今後は、現取り組みを継続しつつ、グループレクや他者との協同作業での生活リハビリを通じて他者との関わりや繋がりにも重点を置き、長期目標である『他の利用者、職員との交流を持ち能動的な生活をする』を達成できるように支援してまいります。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

ご利用者の住環境の充実に寄与

事業所	サービス種別	特別養護老人ホーム
	事業所名	なごやかハウス名楽
	所在地	名古屋市中村区名楽町4丁目7番地の18
利用者	65歳未満 ・ 65~70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳~	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	フロアの掲示物や飾りが雑然としており、決してご利用者にとって心地良いフロアではなかった。		
本人の意向	本来は外出で味わうことのできる季節感を何とか施設の装飾、飾りで演出したい。		
長期目標	笑顔あふれる生活を送る。	取組期間	1年間
短期目標	豊かな館内装飾で刺激を受ける。	取組期間	6か月
関連する加算の算定状況	なし		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）
<ul style="list-style-type: none"> ・生まれ育った生活の中でなじみのある、またどこか懐かしさを感じられるような「和」をテーマにした装飾を施した。 ・介護職員が担当し、数か月にわたって取り組み、季節ごとに内容を変える等、現在も継続している。
結果（達成したこと、達成時期）
<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を感じる温かみのあるフロアになった。 ・廊下が暗い感じであったが、今は雰囲気明るくなったから、気分も明るくなった、とのご入所者からのコメントあり。 ・ご利用者にとって日常の景色が変わることは刺激になっている。 ・職員とご利用者のコミュニケーションが増えた。 ・フロア装飾に留まらず、スタッフ質の美化に目覚める職員がいたり、ダイルームから中低に出られる窓の外を片づける職員がいたり、うれしい連鎖があった。
達成後の課題・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続していくことが課題である。 ・他のフロアも同様に展開を広げていきたい。 ・ご利用者の居室もその人に応じた装飾にしていきたい。 ・ご利用者のために、そして一緒に働く職員が明るい気持ちで働くことができる環境を目指していきたい。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

介護リフトの導入によるケアの質向上・負担軽減

事業所	サービス種別	介護老人福祉施設
	事業所名	特別養護老人ホーム楓林花の里南館（ユニット型）
	所在地	名古屋市緑区大高町字上蝮池 10 番地
利用者	65 歳以上（定員 67 名）	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	立位がとれない利用者にとって、移乗時の負担は大きく、職員にとっても介助時の負担が大きく、ケアの方法にばらつきがあった。		
本人の意向	より安楽なケア		
長期目標	介護リフトの活用	取組期間	6 カ月
短期目標	介護リフトの選定	取組期間	1 カ月
関連する加算の算定状況	加算の算定はなし		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集（福祉用具プラザ、福祉機器取扱業者など） ・ デモンストレーションの実施（福祉機器取扱業者） ・ 取り扱い説明・指導（製造メーカー、介護スタッフ） ・ 介護リフトの活用（車いす⇄ベッド、車いす⇄浴室用車いす）
結果（達成したこと、達成時期）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具プラザへ相談、福祉機器取扱業者の支援を経て、デモンストレーションの実施を踏まえ、複数の機器から選定し、まずは 1F・4F に 1 台ずつ導入した。 ・ 利用者および職員の移乗時の負担が大きく軽減し、安全性が高まりケアの統一が図られるなど、なくてはならない設備と評価する声があがったことから、残る 2F・3F に 1 台ずつ導入し、全フロアへの配備が完了した。 ・ 立位の取れない利用者（定員 67 名 中 10 名）に使用しており、正規職員、パート職員すべてのスタッフが使用できるようになった。
達成後の課題・目標
<p><課題></p> <p>隣接する従来型施設での導入も検討したが、居室のベッドの仕様（低床ベッド）により、同タイプのリフトの使用ができなかった。</p> <p><目標></p> <p>介護リフトをはじめ、他の福祉機器や介護ロボット等のさらなる活用の場を広げる。</p>

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

役割を持つことで、いきいきとした生活ができるようになった

事業所	サービス種別	認知症対応型通所介護
	事業所名	デイサービスらしく瑞穂
	所在地	名古屋市瑞穂区十六町 2-28
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅では役割がなく、生活にメリハリがなくなっている ・ 表情が無く、活気がない 		
本人の意向	やれる事はなんでもやりたい		
長期目標	役割を持ち人の役に立つ	取組期間	R3.1～
短期目標	生活リハビリに取り組む	取組期間	R3.1～
関連する加算の算定状況	なし		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）
「出来ることは何でもやりたい」というご本人様の意思を尊重し、デイサービスらしく瑞穂の特色である生活リハビリへの取り組みを実施。食器を洗う／料理をする／掃除をするなど様々な取り組みを職員が寄り添いながら実施。単に作業という事ではなく、表情や会話などのコミュニケーションの点にも意識を持ちながら、時には他のご利用者様と協力して実施できるよう環境整備を行った。
結果（達成したこと、達成時期）
生活リハビリに取り組んで頂くことで、次第に表情が明るくなり、職員や他の方と会話をすることが増えてきた。最初は職員の声掛けがあることで取り組みを行っていたが、継続することで、自主的にやることを見つけ取り組まれるようになってきた。他の方から「ありがとうね」と言葉をかけられることも多くなり、笑顔が沢山みられるようになってきた。会話に関しても、ジョークを言われるなどユーモアも出てこられた。
達成後の課題・目標
生活リハビリへの取り組みは継続させていきながら、「できる事」を増やしていく。課題としては、取り組みに夢中になってしまうと、休みなく動きっぱなしになってしまうところがあり、疲れが出てしまう為、職員が調整役として上手く関わっていく必要がある。 +

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。



名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

運動意欲

事業所	サービス種別	通所介護		
	事業所名	なごやかハウス岳見 デイサービスセンター		
	所在地	名古屋市瑞穂区岳見町 3-4-1		
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳～			

取り組み

課題（取り組み前の時点）	脱衣の自立		
本人の意向	妻に迷惑を掛けたくない。服の脱ぎ着ぐらいは自分でしたい。		
長期目標	衣類の着脱が自立できる	取組期間	1年
短期目標	衣類を脱ぐことができる	取組期間	半年
関連する加算の算定状況	入浴加算 I		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）
週に2回、入浴の際に脱衣を一人で実施してもらい、できることと介助が必要なことを評価。介助が必要な動作について、専用の機能訓練メニューを作成し個別の機能訓練を実施する。
結果（達成したこと、達成時期）
大きな成果は見られなかったが、当初は運動に興味を示されませんでした。自身が決めた着脱の自立という目標があるため、毎回機能訓練を実施することができるようになった。
達成後の課題・目標
着脱の自立は達成していないため、引き続き運動を実施して頂く。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

強い帰宅願望がおさまり、デイサービスで1日過ごせるようになった。

事業所	サービス種別	認知症対応型通所介護
	事業所名	デイサービス らしく昭和
	所在地	名古屋市昭和区戸田町3-10 戸田マンション1A
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	「お母さんが心配だから家に帰る」「仕事が忙しいから帰る」などと言って玄関に行き、外に出ようとする。		
本人の意向	聞き取り出来ず（居宅サービス計画書より）		
長期目標	自分の事を自分でできる自立した生活	取組期間	2020/3/19～2021/10/31
短期目標	デイサービスでの活動を楽しむ。	取組期間	2020/10/1～2021/10/31
関連する加算の算定状況	特になし。		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

「私の姿と気持ちシート／ひもときシート」を活用し、全職員より情報収集をした。それを基にカンファレンスを行い、対応方法を決めた。まずは個別ケアとして散歩で対応。その結果は改善傾向はみられたものの、著しい改善には至らず。次の段階として、「外へ出たい、家に帰りたい」などは原因の1つにすぎないと仮定し、主な原因は本人にとって心地よい環境ではない、自分の居場所ではないと言う結論に達した。そこで、再度「ひもときシート」を活用し、本人の落ち着くこと、得意な事を洗い出した。飲食店の店主だった事から、食器洗いや食器拭き、花の水やりを生活リハビリとして実施し、庭でのキャッチボール、散歩などで外に出る機会を設ける事とした。これらが、ここでのご自分の“役割”という認識になるまで継続する事にしました。

結果（達成したこと、達成時期）

デイサービスらしく昭和では、ご家族様とは連絡帳を活用し情報共有を密におこない、ケアマネジャー様の協力も頂く事で、ご利用開始当初より、毎ご利用時、1度もキャンセルなく、途中で帰られる事なく利用出来る日々が続いた。上記の対応を約1年半かけて継続した事で、次第に笑顔が見られる機会が増え、1日落ち着いて利用することが出来るようになり、夜間帯もご自宅で熟睡出来ていた。また、並行して通っている他デイサービスでも途中で帰られる事が減り、1日利用が出来るようになった。

達成後の課題・目標

落ち着いて利用が出来るようになったことなどもあり、医師の判断によりメモリーの服薬が中止となった。日中は比較的穏やかに過ごされているが、デイ到着時には施設内に入ることを拒否するという行動が時々みられるようになってきた。次の目標はこの課題をどのように克服するかということである。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。



名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

車椅子から手引き移動することにより生活意欲向上に繋がった。

事業所	サービス種別	認知症対応通所介護
	事業所名	デイサービスらしく天白
	所在地	名古屋市天白区島田4丁目2204
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	退院直後は腰痛もあり、リクライニング車椅子を使用していたが、短期記憶なく、排泄希望頻回。自己にて車椅子から足を出し立ち上がろうとされ、転倒のリスクがあった。		
本人の意向	歩いてトイレに行きたい。		
長期目標	身体機能を維持・向上し、意欲的に生活することができる。	取組期間	R3.7.17～R3.9.25
短期目標	手引き歩行でトイレに行く事ができる。	取組期間	R3.7.17～R3.9.25
関連する加算の算定状況	特になし		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

① 期間：R3年7月～継続中
② 内容：R3年7月に腰椎圧迫骨折により入院していたが退院。長期間の入院により、下肢筋力の低下と腰痛もあり、退院時にリクライニング車椅子を使用していた。日中、トイレに行ったことを忘れ、尿意頻回にあり、ご自分で車椅子から降りようとしてされ、転倒の危険性があった。排泄介助はトイレにて、立ち上がり、移乗、ズボンの上げ下ろしを一部介助で行っていた。ご自分でトイレに自由に行きたいとご本人の希望があり、リハビリの時間を設けた。手引き歩行での距離を少しずつ長くし、下肢筋力は入院前と大差ないまでに回復した。その後も口腔ケアや体操時の移動など、事あるごとに手引き歩行に切り替えた。ご本人も歩くことが出来たことに、自信を持って、表情が明るくなった。その後も手引き歩行で歩行が安定している為、伝い歩きで見守り介助するまでになった。
結果（達成したこと、達成時期）
ご利用者自身の変化と行動変容 退院直後は尿意頻回であったが、伝い歩きで見守り介助になってからは、尿意の訴えが激減し、トイレに行く回数も半減した。また、自由に歩いて移動できるようになり、気になる利用者に話しかけるようになり、コミュニケーションの機会が増えた。また、以前はレクリエーションに参加することが殆どなかったが、積極的にレクリエーションに参加されるなど、他利用者と談笑しながら塗り絵など作品作りにも集中して行えるようになった。
達成後の課題・目標
課題：腰痛は退院後と変化がない為、医療と連携しながら無理のない程度で、歩行訓練を行う。また、伝い歩きでも日々の体調を見ながら、手引き歩行に切り替えるなど、転倒しないよう安全、安心に移動を心掛ける。
目標：ご本人が達成感を得た事で、新しい目標も出来た。今までは室内での歩行のみであったため、今後は散歩など外出で気分転換したいとの希望。ご本人が目標に向けて取り組めるよう、支援していきたい。

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

入所や区分変更することなく、在宅生活を継続できた。

事業所	サービス種別	認知症対応型通所介護
	事業所名	デイサービスらしく笠寺
	所在地	南区前浜通 6-20 メゾンドシェルティ 1F
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	通院しようと思えば外出するが自宅付近で倒れ救急搬送、心筋梗塞で入院。自宅周辺には踏切もあり徘徊が心配な状況で、在宅では困難ではないかと入所を検討している。		
本人の意向	自宅でこれからも生活したい。家に戻れるのであればデイサービスを利用したい。		
長期目標	安心して生活できる環境を作る必要がある。	取組期間	令和3年2月1日～
短期目標	外出後帰宅できないなどトラブルなく自宅で生活することが出来る。	取組期間	令和3年2月1日～
関連する加算の算定状況	無し		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

認知症もあり治療後の身体状態の低下も見られたが、情報と状況だけでつくられた要介護状態でご家族様がケアを断念することのないよう、デイサービスの利用が始まった令和3年2月から、今一度、要介護1のその状態と現段階での「本人のできる力とわかる力」を見極める為、センター方式「私の姿シート」と「24時間シート」活用しました。「行動・心理症状」の要因を探ると、独居での寂しさと地域活動に参加しないということに改善点をみいだしました。時間軸で観察したところ見当識障害はあるものの生活リズムは整っている。同時に「徘徊」となる根本的な原因を緩和する取り組みを実践。お迎え時にご自宅にいない為検索。踏切沿いのフェンスで立ち往生しているところを発見。声をかけると「組合の集まりがあるはずだけど、誰もいなかった」と。実際に集まりはないが、しっかりとした目的を持って外出していたのは事実。違う日には「何をしにきたか忘れた」と混乱していた。背景には現実ではなくとも目的はあり、短期記憶障害が原因で路頭に迷っている。これを徘徊とするなら、「支えあい助け合う誰かが居ない」とことと「できなくなったのではなく、力を発揮する場所がない」ことからの機能低下ではないかと推測しました。今の「できる力とわかる力」で新たな社会生活を築けることで、援助があれば、なじみの暮らしの継続が可能ではないかとひもときました。デイサービスらしく笠寺が「なじみの環境」となれるよう「心身の力の発揮」を目標にチームで取

り組みました。専業主婦だったため家事が得意、それならばと炊事や洗濯のお手伝いをして頂きました。

結果（達成したこと、達成時期）

食事前の挨拶を行い、皆様から拍手を頂き達成感を感じてもらいました。食器洗いや洗濯物たたみは徐々に意欲的になっていき、その際には誠心誠意感謝の気持ちをお伝えすることで、満面の笑みが見られるようになりました。初めは「私がやるから」と言い、他の方との協力はありませんでした。食事の盛り付けは手際よく見事な出来栄で盛り付けしてくださり、そこから一緒にやったり他の方に教えたりしてくださるようになりました。生活リハビリがその方の今ここに作用し、人生にかかわった瞬間です。些細なことではありますが、その方の内面を共有出来ました。それが失われた社会性と相互関係を取り戻し、デイサービスらしく笠寺が「なじみの環境」となり、ご利用者様が生き生きしてきました。予定の中に「らしく笠寺」が組み込まれ、デイサービスに通うことが日課となりました。目的ができ、お友達もできたことで、職員を頼りながら明日を待ちわびるようになりました。デイサービスでの関係の力が一助となり、徘徊が無くなり、在宅生活が継続出来ております。

達成後の課題・目標

現在も入所を視野に入れている状況は変わっておりません。ご本人が望む在宅生活の継続に向けて、その方がそれまでの人生をどう歩んできたか、何が生きがい、何が幸せか、そこに入り込むためにひもときシートなど活用し、何が出来るかを職員がチームとなって考え、時にはご家族様の協力を得て、出来る生活リハビリを一つずつ増やしていき、その方の人生がより豊かになるように取り組みます。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。



名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

役割を持ち、自分の居場所を見つけることができた。

事業所	サービス種別	認知症対応型通所介護
	事業所名	デイサービスらしく笠寺
	所在地	南区前浜通 6-20 メゾンドシェルティ 1F
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ <u>70歳</u> 代 ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	デイサービスの拒否が強く、落ち着かず帰りたくなってしまった為、利用が続きに認知症対応型のデイサービスの利用となりました。		
本人の意向	自宅で家族と暮らしたい。何もしないと退屈		
長期目標	意欲が低下しないようにしたい	取組期間	令和2年8月10日～
短期目標	楽しみや張りのある生活ができる。	取組期間	令和2年8月10日～
関連する加算の算定状況	無し		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

ご本人様の理解を深めるために、「勉強会～帰宅願望～」や「ひもときシート」を活用して、課題解決に取り組みました。少しでも退屈や、空き時間があると「帰りたい」「家でやることもある」という気持ちが出てくること、自分が認められていない、褒められていないと感じていることが分かりました。対応として、できるだけ空き時間が退屈で無ないようにすることや、ご本人様の気持ちの切り替えができるような支援をしていくことにしました。具体的な援助内容として、①落ち着いた雰囲気作り、活動しやすい環境作り。感謝や、労いの言葉かけ。②作品作り、集団レクに取り組んで頂く促しや声掛け。上記2点を重点的に行いました。

結果（達成したこと、達成時期）

ご本人様は音に敏感で、周りの人の話し声やTVの音、物音に強く反応してしまう為、作業しやすいように、BGMを流して集中できる雰囲気を作り、感謝や労いの声掛けをこまめにして、参加しやすい環境を作っていました。すると、季節の飾りや看板作り等、集中して取組める作業が、他のご利用者様と一緒に出来るようになってきました。作品等が出来上がると、他の方と一つの物を作り上げる達成感を感じて頂けるようになり、これを継続すると自発的に「次は何をやるの？」と職員に聞いてきて、「これは自分のやることなんだ！」と積極的に変わってきました。また、完成した作品を参加した皆様と飾り付けることにより、他のご利用者様とのかかわりを持てる様になりました。現在では、デイサービスを自分の居場所とさせていただけるようになり、デイサービスの拒否や「帰りたい」と言われることが無くなりました。

達成後の課題・目標

「自宅で家族と暮らしたい」というご本人様のご希望に寄り添えるように、デイサービスがもう一つの居場所であり続けるように努めていきます。その為に、集中して作業できる環境作り、職員が適宜、感謝や労いの声掛けを続けていき、ご本人様がやりがいや自己肯定感を感じることができるよう介護実践計画を作成し実践をしていきます。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。

